

金券不足の折柄なれば
の不安定は各方面に障
就中金陸緩和の上に於

したる所に塔門家の軒骨を並せ
 し以て聊かなりさも非業謀の御
 老に供すべし

山に
置いては白
の名あり茶の代用にす白頭
山地方にても白山茶を云ひて

山氏之事務引繼を爲したる後各局
部は歴前新任の提携を爲せり
翌日地一氏は長崎縣知事向し 十六

水道及瓦斯用
バルブ、コック類
其也、手願一式
價控

末森富良
清城茂十郎



の胸に腹を叩いて殺能を絶つて以て死する態度を取るに至りたるが爲なり。

然る處に、宗教分斷論を唱ふる心算には、政治思想の普遍を信ぜざるに在る。明白なれども之を口外しては己の地位に不利なるが故に、これを政敵同様に毒り以て眼目派の攻撃を堪へざるを許略を嘗むるものに過ぎざるなり。茲を以て、森繁氏は口に政敵分斷論を唱ふるに抱ゆる其の意趣より出づる言爲に於ては常に李季九の行動に仿けざるべき言爲を取らずに憚らざる事實顯然たり是に由つて之を顧れば森繁氏も李季九が意思の所謂親密主權を取り一は所謂親密主權を取らざるに在るのみなるもの云々を得べし而して事実に違ひざる今日よりの見地は李季九の占斷は適切にして孫策劉琦は全然其目的を達せざることを認むるべきなり。

舊きならんことを爲めに天下を亂さざり種々の犠牲を受け或は布衣者の腰刀となり或は殺能の腕を滅したるもの事實あるも之を介意せず且その善に關係なく其尊敬祖傳教道を通流して人心救済に努むることを閉せり是れ今次の空襲に附加せる緣由とすべからざるなり。

惟ふに朝鮮に於て民族自決の正を貫徹せしむる理想は古來の歴史を度外視したる一種の空想ならぬ戦後には謂はれるなき排日思想を棄絶するには利益ざる所あらむものと人民生活の實際に當りては其理想を放棄せむに至りては至るべき點中に撞面するに二般な希望たるを免れず。要するに此の欠天道教徒が策略の中堅として起したる幸福は余餘多きはたふさる程一棟の夢に侵されたる中庭に蕩華するや孫策劉琦は醒れて反骨を擧げざるに其發展を反省するにあらずや。

第七三 地獄極樂

「ただ今菊枝さん、皆當め成つてゐるんですよ。私個人がどうも悪いので、私個人の事はば、私個人の事でございまして、本統給願へ、本統にあつて彼様へ、本統にあつてございませうか。」

菊枝は椅子に屈出した宗仁の大問題を轉じて應へた。

「あつてですね、あれ思ふところ、無き思ふところ、ありませんまい、併し殿下、おなか全く煩悶不快異常です」

「御心配なんぞなく、さうございませうわ、あれでございまして、それさうして八重子と数人眠らねえんだらうか、あんなん繪にあるやうな世界があるでせうか。」

「うんでせう！」

妹の不睦な質問を、早急にかき止めて答へた。

號昌繁家

[illegible]

朝鮮日報

[illegible]

支拂廿六日限

本年支拂金銀兩通年六月廿六日午時止
 本年支拂金銀兩通年六月廿六日午時止

品

八角及工具鋼

庫

精米機械

在

電力モートル

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

谷田式金庫貳號 壹台
同實用型A號 參台
同實用型B號 數台
同實用型B號 數台
右在庫品有之何時にても御下命に應じ可申候

金庫 京城本町三丁目三十番地
専門業 松若商會
電話 一四九三號

新聞學會講義錄

新聞學及文章講義

今日新學期開講
日下大特典提供
世界一の決講義

內外各書三百新聞
協贊當代一流大家
講述指導會費低廉
若年唯一の發龍門

日本新聞學會

黎明講演集

人命財産を擁護すべき名譽ある消防手の必携

●治安警察法の眞の治安……麻生久
●選舉と勞働運動……吉野博
●我國の労働問題……三邊
●治安警察法の咄……大塚

六冊一十五圓 東京市京橋區柳町二丁目五番
大阪南區三條大馬路東洋館(東京市三丁三八)大阪二丁

松井法律博士主筆
總編輯 前司法省法律部部長 岸野光太郎
監修 警視廳技師 葛西經三郎氏著
(最新刊)

本書は消防団の水力水壓の用法、防火ホースの使用法、各種ポンプの長考試驗法等を

消防新聞編輯局編纂
(再版)

消防新開編
防唧筒操法全書

版再ち忽

女職員の眞の著者 後藤靜香先生著

歡喜

八分三筆

入函裝洋制大五
本差郵航贈金

[illegible]

發行所
東京市港町二丁目
電話二四六六
希聖社
(總發行所)
東京市港町二丁目
電話二四六六

清水式精米麥機

各種摺摺機

新古吸入瓦斯發動機

石油發動機

電動機

新田式調帶

自轉車並附屬品

其他建築用金物、各種鐵物ハ御注
文ニ應ジ作製可仕候

在 庫 品 豐 富

杉原商店代表

資 會 社 杉 原 商 店 機 械 部

大 邱 府 元 町 二 丁 目

[illegible]

鐵之氣勢を改めて四節に
富中出来ざるも外八十一節
二十日
吉付
止直
四十八
四十八
六



國境横断旅行 (其)

所管森林五十萬町歩
四方塞りの新架坡鎮
伊藤 健堂

全くと連に依
道路頗る險惡

約五十萬町歩
約五十萬町歩の六
國境横断旅行の六
國境横断旅行の六

平和祝賀使として 開院元帥宮御渡歐?

明春五月英佛伊國へ
平和祝賀使として
開院元帥宮御渡歐?

世界一周飛行 實行は大正十年の春

準備委員北京へ向ふ
世界一周飛行
實行は大正十年の春

高麗燒苦心談 (一)

土品に劣るぬ優良品
高麗燒苦心談 (一)

代議士 と結名された

同僚から
代議士
と結名された

益多し 府内の流感

死亡者
益多し
府内の流感

夫婦喧嘩が 原因

天然痘発生
夫婦喧嘩が
原因

高麗燒苦心談 (一)
土品に劣るぬ優良品
高麗燒苦心談 (一)

平和祝賀使として
開院元帥宮御渡歐?
明春五月英佛伊國へ

世界一周飛行
實行は大正十年の春
準備委員北京へ向ふ

代議士
と結名された
同僚から

益多し
府内の流感
死亡者

夫婦喧嘩が
原因
天然痘発生

高麗燒苦心談 (一)
土品に劣るぬ優良品
高麗燒苦心談 (一)

平和祝賀使として
開院元帥宮御渡歐?
明春五月英佛伊國へ

世界一周飛行
實行は大正十年の春
準備委員北京へ向ふ

代議士
と結名された
同僚から

益多し
府内の流感
死亡者

夫婦喧嘩が
原因
天然痘発生

高麗燒苦心談 (一)
土品に劣るぬ優良品
高麗燒苦心談 (一)

平和祝賀使として
開院元帥宮御渡歐?
明春五月英佛伊國へ

世界一周飛行
實行は大正十年の春
準備委員北京へ向ふ

代議士
と結名された
同僚から

益多し
府内の流感
死亡者

夫婦喧嘩が
原因
天然痘発生

高麗燒苦心談 (一)
土品に劣るぬ優良品
高麗燒苦心談 (一)

平和祝賀使として
開院元帥宮御渡歐?
明春五月英佛伊國へ

世界一周飛行
實行は大正十年の春
準備委員北京へ向ふ

代議士
と結名された
同僚から

益多し
府内の流感
死亡者

夫婦喧嘩が
原因
天然痘発生

高麗燒苦心談 (一)
土品に劣るぬ優良品
高麗燒苦心談 (一)

平和祝賀使として
開院元帥宮御渡歐?
明春五月英佛伊國へ

世界一周飛行
實行は大正十年の春
準備委員北京へ向ふ

代議士
と結名された
同僚から

益多し
府内の流感
死亡者

夫婦喧嘩が
原因
天然痘発生

前さへ會見して何處までける事は、
出来無いのだからなア
「お體々」云つて、貴郎は妾を如何にするんですか
「今夜此所にはあんまり御欠か
格らんのだから、普通で済ませても何にも構ひ。お前の心遣に成れる譯だから、洗濯足湯と梅事を足にして丁つて、充分な養生をして満足して呉れれば好いので。今更二千兩返して見てさば云はんよ」

「あら二千金なんて、あの紙入の中は有りませんよ、小僧の銀でも七百五十三圓二十八錢五分だけだつたごひびき」
「む、然らうしたか」
「船して貰耶を御留置させることゝふのは、如何したら好いのかな。能く申すでも入れろさへ出るのですか」

「あら此處へ泊れますの」
「泊れんのを無理に泊るのも可なりですが田原君さん、妾羽留を説いて此處まで逃けた來たのを、是で覺醒した上なんですから」
「覺醒？ そんな風に覺醒したのはどのやうな原因で目な生活に入りました」
「オッ、カレン小糸が斯方に」
「妾は今までの妾を悉く忘れ下しにいのです。然うし思ひ出たら後で妾といふ者を、充分にへなれば成り無いし思ひま

「それから、此後の身の振舞ひに

戦前、日本は貿易の常に入超に
 陥つてゐたが、實収額は戰前三年
 の平均に比し、昭和三年に三萬
 七千、四年に六萬、五年に八萬
 七千、六年に九萬、七年に十萬
 七千、八年に十一萬、九年に十
 二萬、十年に十三萬、十一年に
 十四萬、十二年に十五萬、十三
 年に十六萬、十四年に十七萬、
 十五年に十八萬、十六年に十九
 萬、十七年に二十萬、十八年に
 二十一萬、十九年に二十二萬、
 二十年に二十三萬、二十一年に
 二十四萬、二十二年に二十五萬、
 二十三年に二十六萬、二十四年
 に二十七萬、二十五年に二十八
 萬、二十六年に二十九萬、二十
 七年に三十萬、二十八年に三十
 一萬、二十九年に三十二萬、三
 十年に三十三萬、三十一年に三
 十四萬、三十二年に三十五萬、
 三十三年に三十六萬、三十四年
 に三十七萬、三十五年に三十八
 萬、三十六年に三十九萬、三十
 七年に四十萬、三十八年に四十
 一萬、三十九年に四十二萬、四
 十年に四十三萬、四十一年に四
 十四萬、四十二年に四十五萬、
 四十三年に四十六萬、四十四年
 に四十七萬、四十五年に四十八
 萬、四十六年に四十九萬、四十
 七年に五十萬、四十八年に五十
 一萬、四十九年に五十二萬、五
 十年に五十三萬、五十一年に五
 十四萬、五十二年に五十五萬、
 五十三年に五十六萬、五十四年
 に五十七萬、五十五年に五十八
 萬、五十六年に五十九萬、五十
 七年に六十萬、五十八年に六十
 一萬、五十九年に六十二萬、六
 十年に六十三萬、六十一年に六
 十四萬、六十二年に六十五萬、
 六十三年に六十六萬、六十四年
 に六十七萬、六十五年に六十八
 萬、六十六年に六十九萬、六十
 七年に七十萬、六十八年に七十
 一萬、六十九年に七十二萬、七
 十年に七十三萬、七十一年に七
 十四萬、七十二年に七十五萬、
 七十三年に七十六萬、七十四年
 に七十七萬、七十五年に七十八
 萬、七十六年に七十九萬、七十
 七年に八十萬、七十八年に八十
 一萬、七十九年に八十二萬、八
 十年に八十三萬、八十一年に八
 十四萬、八十二年に八十五萬、
 八十三年に八十六萬、八十四年
 に八十七萬、八十五年に八十八
 萬、八十六年に八十九萬、八十
 七年に九十萬、八十八年に九十
 一萬、八十九年に九十二萬、九
 十年に九十三萬、九十一年に九
 十四萬、九十二年に九十五萬、
 九十三年に九十六萬、九十四年
 に九十七萬、九十五年に九十八
 萬、九十六年に九十九萬、九十
 七年に一百萬、九十八年に一百
 一萬、九十九年に一百二萬、一
 千年に一百三萬、一千一年に一
 百四萬、一千二年に一百五萬、
 一千三年に一百六萬、一千四年
 に一百七萬、一千五年に一百八
 萬、一千六年に一百九萬、一千
 七年に二百萬、一千八年に二百
 一萬、一千九年に二百二萬、二
 千年に二百三萬、二千一年に二
 百四萬、二千二年に二百五萬、
 二千三年に二百六萬、二千四年
 に二百七萬、二千五年に二百八
 萬、二千六年に二百九萬、二千
 七年に三百萬、二千八年に三百
 一萬、二千九年に三百二萬、三
 千年に三百三萬、三千一年に三
 百四萬、三千二年に三百五萬、
 三千三年に三百六萬、三千四年
 に三百七萬、三千五年に三百八
 萬、三千六年に三百九萬、三千
 七年に四百萬、三千八年に四百
 一萬、三千九年に四百二萬、四
 千年に四百三萬、四千一年に四
 百四萬、四千二年に四百五萬、
 四千三年に四百六萬、四千四年
 に四百七萬、四千五年に四百八
 萬、四千六年に四百九萬、四千
 七年に五百萬、四千八年に五百
 一萬、四千九年に五百二萬、五
 千年に五百三萬、五千一年に五
 百四萬、五千二年に五百五萬、
 五千三年に五百六萬、五千四年
 に五百七萬、五千五年に五百八
 萬、五千六年に五百九萬、五千
 七年に六百萬、五千八年に六百
 一萬、五千九年に六百二萬、六
 千年に六百三萬、六千一年に六
 百四萬、六千二年に六百五萬、
 六千三年に六百六萬、六千四年
 に六百七萬、六千五年に六百八
 萬、六千六年に六百九萬、六千
 七年に七百萬、六千八年に七百
 一萬、六千九年に七百二萬、七
 千年に七百三萬、七千一年に七
 百四萬、七千二年に七百五萬、
 七千三年に七百六萬、七千四年
 に七百七萬、七千五年に七百八
 萬、七千六年に七百九萬、七千
 七年に八百萬、七千八年に八百
 一萬、七千九年に八百二萬、八
 千年に八百三萬、八千一年に八
 百四萬、八千二年に八百五萬、
 八千三年に八百六萬、八千四年
 に八百七萬、八千五年に八百八
 萬、八千六年に八百九萬、八千
 七年に九百萬、八千八年に九百
 一萬、八千九年に九百二萬、九
 千年に九百三萬、九千一年に九
 百四萬、九千二年に九百五萬、
 九千三年に九百六萬、九千四年
 に九百七萬、九千五年に九百八
 萬、九千六年に九百九萬、九千
 七年に一億、九千八年に一億一
 萬、九千九年に一億二萬、一
 千年に一億三萬、一千一年に一
 億四萬、一千二年に一億五萬、
 一千三年に一億六萬、一千四年
 に一億七萬、一千五年に一億八
 萬、一千六年に一億九萬、一千
 七年に二億、一千八年に二億一
 萬、一千九年に二億二萬、二千
 年に二億三萬、二千一年に二億
 四萬、二千二年に二億五萬、二
 千三年に二億六萬、二千四年に
 二億七萬、二千五年に二億八萬、
 二千六年に二億九萬、二千七年
 に三億、二千八年に三億一萬、
 二千九年に三億二萬、三千年
 に三億三萬、三千一年に三億四
 萬、三千二年に三億五萬、三千
 三年に三億六萬、三千四年に三
 億七萬、三千五年に三億八萬、
 三千六年に三億九萬、三千七年
 に四億、三千八年に四億一萬、
 三千九年に四億二萬、四千年
 に四億三萬、四千一年に四億四
 萬、四千二年に四億五萬、四千
 三年に四億六萬、四千四年に四
 億七萬、四千五年に四億八萬、
 四千六年に四億九萬、四千七年
 に五億、四千八年に五億一萬、
 四千九年に五億二萬、五千年
 に五億三萬、五千一年に五億四
 萬、五千二年に五億五萬、五千
 三年に五億六萬、五千四年に五
 億七萬、五千五年に五億八萬、
 五千六年に五億九萬、五千七年
 に六億、五千八年に六億一萬、
 五千九年に六億二萬、六千年
 に六億三萬、六千一年に六億四
 萬、六千二年に六億五萬、六千
 三年に六億六萬、六千四年に六
 億七萬、六千五年に六億八萬、
 六千六年に六億九萬、六千七年
 に七億、六千八年に七億一萬、
 六千九年に七億二萬、七千年
 に七億三萬、七千一年に七億四
 萬、七千二年に七億五萬、七千
 三年に七億六萬、七千四年に七
 億七萬、七千五年に七億八萬、
 七千六年に七億九萬、七千七年
 に八億、七千八年に八億一萬、
 七千九年に八億二萬、八千年
 に八億三萬、八千一年に八億四
 萬、八千二年に八億五萬、八千
 三年に八億六萬、八千四年に八
 億七萬、八千五年に八億八萬、
 八千六年に八億九萬、八千七年
 に九億、八千八年に九億一萬、
 八千九年に九億二萬、九千年
 に九億三萬、九千一年に九億四
 萬、九千二年に九億五萬、九千
 三年に九億六萬、九千四年に九
 億七萬、九千五年に九億八萬、
 九千六年に九億九萬、九千七年
 に十億、九千八年に十億一萬、
 九千九年に十億二萬、一千年
 に十億三萬、一千一年に十億四
 萬、一千二年に十億五萬、一千
 三年に十億六萬、一千四年に十
 億七萬、一千五年に十億八萬、
 一千六年に十億九萬、一千七年
 に十一億、一千八年に十一億一
 萬、一千九年に十一億二萬、二
 千年に十一億三萬、二千一年に
 十一億四萬、二千二年に十一億
 五萬、二千三年に十一億六萬、
 二千四年に十一億七萬、二千五
 年に十一億八萬、二千六年に十
 一億九萬、二千七年に十二億、
 二千八年に十二億一萬、二千九
 年に十二億二萬、三千年に十二
 億三萬、三千一年に十二億四萬、
 三千二年に十二億五萬、三千三
 年に十二億六萬、三千四年に十
 二億七萬、三千五年に十二億八
 萬、三千六年に十二億九萬、三
 千七年に十三億、三千八年に十
 三億一萬、三千九年に十三億二
 萬、四千年に十三億三萬、四千
 一年に十三億四萬、四千二年に
 十三億五萬、四千三年に十三億
 六萬、四千四年に十三億七萬、
 四千五年に十三億八萬、四千六
 年に十三億九萬、四千七年に十
 四億、四千八年に十四億一萬、
 四千九年に十四億二萬、五千年
 に十四億三萬、五千一年に十四
 億四萬、五千二年に十四億五萬、
 五千三年に十四億六萬、五千四
 年に十四億七萬、五千五年に十
 四億八萬、五千六年に十四億九
 萬、五千七年に十五億、五千八
 年に十五億一萬、五千九年に十
 五億二萬、六千年に十五億三萬、
 六千一年に十五億四萬、六千二
 年に十五億五萬、六千三年に十
 五億六萬、六千四年に十五億七
 萬、六千五年に十五億八萬、六
 千六年に十五億九萬、六千七年
 に十六億、六千八年に十六億一
 萬、六千九年に十六億二萬、七
 千年に十六億三萬、七千一年に
 十六億四萬、七千二年に十六億
 五萬、七千三年に十六億六萬、
 七千四年に十六億七萬、七千五
 年に十六億八萬、七千六年に十
 六億九萬、七千七年に十七億、
 七千八年に十七億一萬、七千九
 年に十七億二萬、八千年に十七
 億三萬、八千一年に十七億四萬、
 八千二年に十七億五萬、八千三
 年に十七億六萬、八千四年に十
 七億七萬、八千五年に十七億八
 萬、八千六年に十七億九萬、八
 千七年に十八億、八千八年に十
 八億一萬、八千九年に十八億二
 萬、九千年に十八億三萬、九千
 一年に十八億四萬、九千二年に
 十八億五萬、九千三年に十八億
 六萬、九千四年に十八億七萬、
 九千五年に十八億八萬

冬 日
青木しける(京城)
あけの窓に流れ來陽の光かけず
今日は何かうれしき
邊に一片落ちし白菊の花葩いた

五段 潮越 燕作氏
二九 紅本龍太郎氏

●	一六	ろ十
○	一七	ろ十二
○	一八	に九
○	一九	ほ十
○	二〇	ほ九
○	二一	へ十
○	二二	へ十一
○	二三	へ十二
○	二四	へ十三
○	二五	そ十八
○	二六	れ十二
○	二七	れ十一
○	二八	そ十一
○	二九	へ十一
○	三〇	は十一

[illegible]

十人十色 粹書
人生の春
米田屋玉子著
恋の三浪



是に先著御金者五百名を四
 等新婚の夜に稱する百員
 願の喜無代進呈代換
 圓舞輪舞代用 増田口東
 三田松坂町三八八文旭堂
 四八八八

告 告

[illegible]

セエフチー
萬年ペン
全
安
萬年ペン
京城市町
篠崎文具店
六圓五十錢
八圓五十錢
七圓四十錢
四十二圓
十八金
萬年ペン
中込次郎進呈

満七歳以下の子どもをかねつさまし
 富澤山王口先生特許劑
 醫學士独逸先生特許發明

オイニ

家庭の必備藥

定十銭 金貨半
 個廿錢 貳版
 賣す

主は、おんかねつ
 は、よりかみで
 一百に効く
 一切に効有

長持小瓶に附作片一紙

要請者伊藤主
 本舖在東京
 丹平問合樂房

[illegible]

クリスマスのおくりもの
今!! 東京で大流行の
家庭化粧料——として只今なくてはならぬ

進物箱案内

五種詰合せ 壹圓十五錢
ホーカリー液 瓶二個
入一圓五十錢
ホーカリー白粉 個入一圓
三十錢
四種詰合せ 壹圓五錢
三種詰合せ 壹圓
二種詰合せ 七十五錢
何れも美麗箱入 贈義頗る優美

又最寄の店に品切の時は本舖へ御注文を乞ふ(送費六錢)

贈つて手輕 貰つて重寶な

進物箱とはコレの事です

ホーカリー液 東京神田和泉橋
ホーカリー白粉 本舖堀越嘉太郎商店
ホーカリー白粉
ホーカリー液

電話 四四四三
振替 東京 五五五五

肝油ドロップス

肝油の半量を生白土に換へ更に有機酸

肝油全量一割一五にして、ホウ糖及可溶性
全葉素を以て成る、強壯料なり。



肝臓が一般の虚弱者、痛風者、結核患者、老弱者、寒室者、良に起因する眼病患者、尿病質の兒等に対し、治癒に缺くべからざる滋養劑なることは、醫者の常識なり。然れども特有の臭味甚だ不快にして前記困難なるが故に、其服用を望みせらるるを慚し、河合氏多年苦心研究の結果、**形骸性葉酸**、**ロツプス**に似て、**麥芽糖**及**可溶性合鹽**を藥料として、夏に極く強い熱劑を配合し、一瞬間に精製肝油の含有量を正確にし、**肝油錠**として消化吸収の最も効用なる、美味無臭の「**肝油ドロップス**」を創製す。本品は従来の肝油製剤に優り服用に煩雜な手配、搬荷の不便、變色の迅速等の缺點なく、普通の菓子同様容易に食用し得る事と、消化吸収の作用頗る良好なる事とを、本品の最も優秀なる特色とする所なり。

價 定

五十圓入 金要銀拾貳 百二十圓入 金要銀貳拾 貳方百圓入 金要銀貳拾圓	五十圓入 金要銀拾貳 百二十圓入 金要銀貳拾 貳方百圓入 金要銀貳拾圓	五十圓入 金要銀拾貳 百二十圓入 金要銀貳拾 貳方百圓入 金要銀貳拾圓	五十圓入 金要銀拾貳 百二十圓入 金要銀貳拾 貳方百圓入 金要銀貳拾圓
--	--	--	--

内陸以外各埠
郵費在內如小
額免之

藥庭家ワツミ ◎ 鹼石ワツミ

舖 本
店 商 屋 見 丸

